

金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

金融広報  
アドバイザーの  
紹介

## 地域に合った話題で 金融を身近に考える機会にしたい

宮城県金融広報委員会  
金融広報アドバイザー  
鈴木真子

宮城県の金融広報アドバイザーとして、東日本大震災の被災地の学校でも金銭教育を続けている鈴木真子さん。「子どもたちが夢を持ち続けられる社会のために」との思いを胸に、講座「つひとつの二期一会を大切にしています」。

\* \* \* \*

鈴木さんは約30年にわたり、主婦層を対象とした「家計簿」、さらに対象層を広げた「生活設計」、小学校から大学までの児童生徒・学生を対象とした「金銭教育」など、時代の流れとともに必要とされてきた分野で金融広報活動を続けています。

鈴木さんのモットーは、難しいテーマでも、身近な話題と関連させて分かりやすく伝えることです。

「初めての講座は、そろそろ年金生活を始めようという主婦を対象にした家計簿がテーマでした。20代



昭和57年、貯蓄増強中央委員会が募集した「家計簿体験談」に入選。それを機に、翌58年から宮城県貯蓄推進委員会の貯蓄推進員（現在の「金融広報アドバイザー」）に。その後、家計簿や生活設計を中心とした講義活動や消費生活展における相談員などを行うかたわら、民生委員を務め、社会福祉協議会での情報提供にも尽力。近年は金銭教育や金融トラブルをテーマとした学校や各種講座における講師として幅広く活躍中。

番だと実感した最初の経験です」。

その教訓から、会場の受講生にマイクを向けて会話をしながら進めていくというのが鈴木さんの講義のスタイルになりました。受講生が見たり聴いたり考えたりしていることを話してもらおうという狙いです。

「地域によってその土地柄や生活習慣はいろいろです。隣の町でも価値観や暮らし

の私がベテラン主婦を前に家計簿の理論を話すことはなかなか難しいですよ。どうしようかと思いついたのが、「賢い主婦の知恵を引き出しながら」ということでした。基本を知ってもらうには身近な具体例が一

ぶりが異なるのは普通。ですから、初めて訪れる地域では、できるだけ事前の情報を得、講座の中で受講生から聴く話をヒントに、その地域に合った事例や話題を取り上げて話すようにしています」。

講義を通じて感じるのは、日常生活の中の「気付き」が難しいという点。そこで考えたのが『3か条形式』。さまざまな消費行動について、3つの選択肢の中から一人一人がそれぞれ何を選ぶか。気付きのきっかけとして自らの考えを深めてもらうための工夫です。

講座後、受講者の感想を聴けるのが一番の楽しみだという鈴木さん。「ほとんどの講座は一期一会です。その出会いの中で、少しでも心に残る話があれば嬉しいですね。難しい金融や経済の話を、どれだけ当事者意識を持って捉えてもらえるかが、その内容をかみくだいて伝える私の役割だと思っています。今後もより多くの方たちに、普段の生活の中で気付かないまままでいる必要な知識に目を向けるきっかけとなる講義を行っていききたいですね」と話しています。